



菊舎顕彰会会報

第19号
平成31年3月

発行
菊舎顕彰会

〒759-5512
山口県下関市豊北町田耕
電話083-783-0055
FAX 083-783-0055

e-mail
info@kikusha.com

行事予定

- ◎ 総会 四月二十一日(日)十三時三十分〜十五時 促進センター
- ◎ 会員研修 「菊舎ゆかりの地めぐり・長府」日時未定、詳細は後日
- ◎ 企画展 「書と絵でつづる―田上菊舎俳句の世界―」
会場・やまぎん史料館 下関市観音崎町十一六
六月二十八・二十九・三十日午前10時〜十六時三十分
- ◎ 菊舎顕彰俳句大会 十月二十日(日) 豊北町田耕促進センター

俳句相撲大会「赤間場所」

― 詳細は後日ご案内します ―
六月三十日(日) 午前 唐戸周辺吟行
投句ベキり 十一時半 審査後、出場者決定
午後一時半より 相撲大会
会場 下関市観音崎町 やまぎん史料館

次代へつなごう菊舎の世界

平成を駆けぬけて

会長 岡 昌子

いつも皆さまには温かいご支援をいただき、心よりお礼申し上げます。
平成九年秋に会長を拝命し、菊舎一途に駆けぬけた私も菊舎の齢を越し、近年、すっかり体力が落ちてまいりました。日常の活動や顕彰会の運営に些かの不安を感じているところでございます。
昨秋、長い間副会長として献身的に活動してくださった古川哲郎氏に先立たれまして、悲嘆に暮れましたが、彼の菊舎に対する熱い志と、会員さんの励ましに背を押され、今日を迎えることが出来ました。
古川さんは、常々「菊舎を通じて多くの皆さんと出会えたことが、何よりも宝」と、仰っていました。
さて、今年は皆さんのご要望に応え、顕彰会名物の俳句相撲を再開いたします。

「書と絵でつづる―田上菊舎俳句の世界」展(六月二十八・二十九・三十日)の期間中の日曜日に、下関市のやまぎん史料館を会場に開催いたします。
今回は趣向をかえ、当日でも参加できる内容にして、幅広く関取を募集したいと思っています。改めてご案内しますので、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。
また、今年の展示はジャンルの違う方々が、菊舎俳句の世界を自由に表現される独創的な作品展です。そして、顕彰会手作りの「菊舎紙芝居」も初公開いたします。貸し出しにも応じたいと思っております。ぜひ、一度ご覧ください。「菊舎検定クイズ」も、昨年に引き続き行います。趣向を凝らした企画展となっております。お誘い合わせのご来館を、お待ちしております。

平成 29 年度菊舎顕彰会収支決算書
平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

収入の部		単位：円		
項目	予算額	決算額	増 減	備 考
前年度繰越	3,079	3,079	0	
会 費	600,000	668,000	68,000	334人・668口
事業収入	200,000	158,580	▲41,420	研究ノート・慕情・句集・手帳
貯金利息	30	3	▲27	
助成金	20,000	20,000	0	田耕振興協議会 20,000
雑収入	26,891	47,000	20,109	祝儀・寄付
合 計	850,000	896,662	46,662	

支出の部		単位：円		
項目	予算額	決算額	増 減	備 考
会議費	20,000	17,567	▲2,433	総会・役員会
事業費	570,000	598,654	28,654	俳句相撲・萬福寺菊舎展・会報
研修費	50,000	49,643	▲357	研修下見
研究費	50,000	44,904	▲5,096	研究会
事務通信費	120,000	130,703	10,703	通信費・コピー・事務用品
交際費	20,000	25,544	5,544	香典・萬福寺御礼
雑 費	20,000	3,000	▲17,000	文化協会会費
次年度繰越		26,647	26,647	
合 計	850,000	896,662	46,662	



古川副会長のご逝去を悼む

下関市 真鍋 聡

昨年9月、顕彰会副会長の古川哲郎さんがご逝去されました。70歳ちょうどという早すぎるお別れに、いまだに信じられない気持ちです。

顕彰会活動の要として、いつも控えめながら的確な指示で会長をサポートされており、傍目には相性の良いご夫婦のような息の合ったコンビぶりでした。

お見舞いにかがったとき、「もっとくずし字を読めるように勉強したい」など、前向きに希望を語っておられ、回復されることを確信していましたが、その一月後に急変されるとは思いもしませんでした。

古川副会長とは長くお付き合いさせて頂きましたが、微塵も嫌味を感じたことがなかったという稀有なお人柄で、これは思い出を語られる人が口をそろえておっしゃることです。

その証左に残された写真を見ると集合写真はもとよりスナップ写真の表情もほとんど優しい笑顔の写真ばかりで、今思い返しても微笑んだ温顔しか浮かびません。

最後に一緒した研修の下見で萩を廻った時も運転役をお引き受けくださり、いつもと変わらない様子でしたが、珈琲休憩の際、少しお疲れ気味に見えたのは今思えば病魔のせいだったのかと、当時労りの言葉もかけられなかった事が悔やまれます。古川さん、お会いできて幸せでした。

海外からも注目！菊舎企画展

昨年五月十一日から三日間、やまぎん史料館に於て顕彰会企画展「菊舎の世界」を開催しました。期間中、菊舎検定試験も行われ、合格者にはオリジナルの葉が賞品として贈られ好評を博しました。展示された菊舎の作品群もさることながら、それらについて目を引いたのは、菊舎研究家故上野さち子先生旧蔵の「俳諧発句手鑑」。八メートルに及ぶ折帖には孝明天皇曾祖父の和歌や菊舎の師大野傘狂の句などが集められて居り、いやが上にも来場者の関心は高まりました。



茶の湯話で会場を盛り上げる二人

更に特筆すべきは企画展に合せて会場を訪れた二人の海外からのお客だった。一人は南カリフォルニア大学で江戸・明治時代の女性と茶道を掘り下げて行く中で菊舎に遭遇し、その潔い生きざまをアメリカ人にも紹介することを目指しているレベッカ・コーベツトさんだ。流暢な日本語で当会会員の吉村ひとみとの茶の湯に関する対談は興味深いものだった。もう一人、中国からの留学生は菊舎が卒論のテーマだとか。益々国際色豊かな菊舎である。



中国から岡山大学に留学中の学生

■ 研修旅行にはたいへんお世話になりました。お蔭で一味も二味も上等な旅の思い出ができました。宗像市 会員

■ 研修旅行の写真拝受、良き思い出です。江戸時代に近づきつつある菊舎の里が特に印象深く感じました。山陽小野田市 会員

■ 旅行前の天候にはやきもきされましたが、おかげさまでした。いつもの心配りの準備やお世話に感謝しています。楽しい二日間でした。神戸市 会員

~~~~~

編集後記

平成が行こうとしていきます。会員の多くの方は昭和、平成そして次へと三つの時代の空気に触れる事になります。がどの様な世の中になるのでしょうか。たとえ時代が代わったとしても菊舎顕彰会は不変です。これからも時代に即応をした活動を続けて参ります。《佑》